

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

教科の調査結果にみられる特徴と現状分析

<p>概要 全体的には、本校児童は、正答率において全国平均や県平均を上回っている。しかし、個々に見ていくといくつかの課題が明らかになった。</p> <p>各教科テストについて <国語A（主として知識）> すべての領域において、全国平均や県平均を上回る、もしくは全国平均や県平均と同じような正答率である。とくに「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域はよくできており、全国平均よりも4%～3%ほど上回っている。 <国語B（主として活用）> すべての領域において、全国平均や県平均を4%以上、上回っている。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域はよくできており、全国平均よりも9%上回っている。加えて、記述式の回答は大変よくできており、正答率は全国平均を大きく上回っている。 <算数A（主として知識）> すべての領域において、全国平均や県平均を上回る、もしくは全国平均や県平均と同じような正答率である。「数と計算」「数量関係」の領域はよくできており、全国平均よりも4%上回っている。 <算数B（主として活用）> すべての領域において、全国平均や県平均を上回っている。とくに「図形」は全国平均を6%ほど上回り、「数と計算」も4%ほど全国平均を上回っている。</p>
--

改善計画等

<p>全体的には、本校児童は、正答率において全国平均や県平均を上回っている。しかし個々に細かく見ていくと、いくつかの課題が明らかになり、それらの課題を整理し、支援していくことで更なる伸長が期待できる。</p> <p><国語A（主として知識）> すべての領域において全国平均や県平均を上回るもしくは同じような正答率ではあるが、設問によっては苦手としている傾向が見られるものがある。特に「書くこと」「伝統的な言語分野と国語の特質に関する事項」の領域の一部が若干劣っており、次の項目について重点的に指導する。 ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。 ・習った漢字を正確に書き、文や文章の中で使う。</p> <p><国語B（主として活用）> よくできており、すべての領域、設問において、全国平均や県平均を上回っている。その中で、全国平均や県平均に近い正答率であり、重点的に指導していかなければならないものは次のものである。 ・「読むこと」登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述についての自分の考えをまとめること。 ・「書くこと」事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p><算数A（主として知識）> 領域では「数と計算」「図形」「数量関係」の正答率が全国平均や県平均より高く、「量と測定」が下回っている。それぞれの設問ごとに細かく見てみると、平均を下回るものもある。次の項目を今後重点的に指導をする。 ・「数と計算」小数の乗法の計算の仕方を考え、それらの計算ができる。【60×0.4を、60×4を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ】 ・「量と測定」三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方考えること【示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ】 ・「図形」直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること【立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ】 ・「数量関係」資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べること。【資料から二次元表の合計欄に入る数を求めることができる】</p> <p><算数B（主として活用）> 全ての領域において正答率が全国平均や県平均より高い。設問によっては平均を下回るものもあり、次の項目を今後重点的に指導をする。 ・「3.5学年 数と計算」整数の性質について理解を深め、約数、倍数について知ること。【示された考えを基に、$54 - 45$の場面に残る部分を図に表す】 ・「3学年数量関係 5学年量と測定」数量の関係を表す式を理解する。測定値の平均について知る。【仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める】</p>
--

学習状況調査のうち、特徴的なもの

質問項目	江戸小	全国	質問紙の調査結果にみられる特徴と現状分析
好ましい習慣が多かったもの（特徴的なものの抜粋）			・特徴的なものを抜粋して掲載したが、ほとんどの質問項目で好ましい習慣が身につけている割合が全国平均より高くなっている。
自分には良いところがある	47.5	38.6	・自分のよい面に気づき、学校が楽しいとこたえている児童が全国に比べて多い。これは地域保護者の方々の協力、励ましと見守りによるところも大きいと考える。今後も自分に自信を持ち、充実した学校生活を送れるよう教職員一同も子どもたちの健やかな成長のために日々取り組んでいきたい。また、7割近くの児童がニュース番組を見ており、社会の動向にも関心が高い。
学校に行くのが楽しい	69.7	55.4	・1日に1時間以上学習する児童が7割近くいる一方で、学校の復習をしている児童は15%しかいない。復習をしている児童と全くしていない児童では、教科によって約30%の学力差があった。家庭での時間の使い方、学習習慣について家庭と協力しながら指導していきたい。
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	66.7	54.5	・人の役に立ったり、困っている人を進んで助けたいと答えた児童の割合が、全国平均より高い。学校での道徳心の育成や低学年との関わりだけでなく、家庭や地域での教育も多分に影響があると思われる。今後も心の育成を大切に日々の教育活動に取り組ませていきたい。
平日に家で、1時間以上勉強している	66.7	64.4	・約半数の児童が地域行事や地域でのボランティア活動に参加していた。学校だけでなく地域と積極的に関わる機会を大切にしながら、今後も健全な人間形成の育成に努めていきたい。
人の役に立つ人間になりたい	84.6	71.2	・教師に良いところを認めてられ、学習をしっかり教えられていると感じている児童の割合が全国平均より多くいた。平日頃から教職員が子どものために真剣に向き合い、真摯に取り組んだ結果と捉えたい。今後も多くの子どもがそのように感じられるように研鑽していきたい。
人が困っているときは、進んで助けたい	47.5	38.5	・「総合的な学習の時間」での学習活動の取り組み方は、本校の地域性を活かした特色ある教育活動を行った結果、主体的に学習に取り組む児童が全国平均より上回った。今後も生きる力を育むために個々に寄り添い指導を継続させていく。
地域の行事に参加している	48.5	35.0	・授業において、目標の提示や振り返り等のまとめを書く時間の確保は、本校で大切にしていることである。全国平均より高い割合であるが、子どもにとって理解しやすい目標や、知識として定着して振り返りを行っているか等、今後も教師の授業力が向上できるよう日々研修に励んでいきたい。
地域社会などでボランティア活動に参加した	55.6	35.4	・朝食を毎日食べている児童ほど、正答率が高い傾向が見られる。さらに保護者の皆様の協力を得ていきたい。
先生は、あなたのよいところを認めてくれている	58.6	47.3	
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	61.6	50.5	
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	56.6	27.1	
5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた	62.6	58.6	
5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	80.8	68.9	
生活習慣の改善が必要なもの（特徴的なものの抜粋）			
家で、学校の授業の復習をしている	15.2	23.6	
朝食を毎日食べている	85.9	87.0	